

介護ビジョン

CARE VISION

4

定価 1,200円

平成15年10月15日第三種郵便物認可 毎月1回20日発行 平成25年3月20日発行 通巻118号

特集

求められる内容は？

ケアのあり方は？

今こそ始めるべき

24時間ケアサービスの研究

第2特集 訪問スタッフの管理・育成に使える
他職種に学ぶ
訪問サービスマネジメント

特別レポート 東日本大震災から2年
復興を機に高齢者の健康対策を加速
「共同体」を基盤とした
仕組みづくりへ



● 今月の顔

中野一司

医療法人ナカノ会理事長

● ビジネスフロンティア

エレクター株式会社

● 住まいの提案

ワタミの介護株式会社

介護付有料老人ホーム「レストヴィラ南堀江」

● 夢あるまちへ～地域とともに生きる～

株式会社セブンワーカーズ「グループホーム天鼓」

Case 2 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

株式会社グラフィス

【所在地】
東京都中央区新川1-11-11
東京冷凍新川ビル3階

【代表者】
小田秀樹

【提供サービス】
定期巡回・随時対応型訪問介護看護／訪問介護／訪問看護／通所介護／居宅介護支援

【法人概要】
東京や大阪を中心に介護事業を幅広く展開。現在、東京都千代田区や江東区、中央区でサービスを提供している定期巡回・随時対応型訪問介護看護では、クラウドを利用して自社開発したケアコールオペレーションシステム「G24システム」を活用している。このシステムは、北海道から鹿児島まで全国9カ所の事業所に無償で配布している。

【URL】
<http://www.glafis.co.jp/>

同社では、定期巡回・随時対応型訪問介護看護について、「1社が独占して行うサービスでなく、地域の他事業所の連携・協力なくして成り立たないサービス」だと認識。現在同社がサービスを提供している東京都千代田区、江東区、中央区において、他社の訪問介護事業者や訪問看護事業者との連携を図っている。

対応できる委託訪問介護事業所の訪問時間帯に応じて、委託料は介護報酬の60～85%と高めに設定。さらに、同社が独自に開発したクラウドのケアコールオペレーションシステムとケアコール機情報共有システム「G24システム」を連携事業者は無償提供するなど、できるだけ多くの連携事業者を増やす工夫をしている。人員体制については、同社が夜間のオペレーターやサービスに対応する職員を正社員の男性職員の資格者に限定、安定的にサービスが提供できる体制を整えた。

課題は連携する訪問看護事業者の確保（看護師のアセスメント）と計画作成責任者の教育だという。訪問看護ステーションの報酬と比較すると極端な赤字になることが敬遠してしまう要因になっており、連携による情報共有とインセンティブが働く仕組みが大切だという。

Case 3 24時間対応デイサービス

株式会社CLOVER

【所在地】
東京都新宿区四谷4-12 KEELS_g

【代表者】
香丸俊幸

【提供サービス】
デイサービス(24時間対応)

【法人概要】
「365日24時間年中無休のデイサービス」を特徴に、一軒家型の定員10人の小規模デイサービスを都内で3拠点展開。手厚い人員体制や職員の子どもを預かる「キッズルーム」を設置するなど、働きやすい職場づくりに力を入れている。1時間100円の延長サービスや1泊800円のお泊まりデイサービスを提供し、差別化を図っている。

【URL】
<http://day-clover.com/>

都内ではショートステイの予約が困難な区も多いうえ、高額な施設に入所できる人は限られる。家族のレスパイトケアという観点からも、デイサービスの延長サービスや宿泊サービスのニーズは高いと同社は考える。

料金は大手フランチャイズ企業の価格を参考に1泊800円、20時までの延長サービスは1時間あたり100円に設定。1カ月宿泊しても自己負担額は11万円前後に抑えている。宿泊サービスの定員は各事業所で5人、居室は相部屋だが、仕切りで区切るのはもちろん、別途1泊5,000円の個室も用意。東京都の「指定通所介護事業所等における宿泊サービスの基準及び届出・公表制度」にも対応している。

宿泊デイサービスは価格設定が重要だと考える同社。各事業所で随時1～3人程度が利用しているが、価格を抑えることで利用者を安定的に確保することが宿泊デイサービス運営のポイントだという。

夜勤職員はパート職員を活用することでコストを抑えた一方、利用者にはかかりつけ医が24時間対応できる体制を整えるとともに、OJTの充実やマニュアルの整備など万全の態勢を整えている。

Part 2

24時間ケアサービスのフロントランナーに聞く！
事業成功のノウハウ

パート2では、24時間ケアサービスに力を入れている事業所を取材。定期巡回・随時対応型訪問介護看護を開始した2つの法人のほか、介護保険外サービスとして24時間対応のケアを実践している事業所から、24時間ケアサービス提供体制構築のためのポイントについて話を聞いた。

Case 1 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

社団法人認知症高齢者研究所

【所在地】
神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央20-14-401

【代表者】
羽田野政治

【提供サービス】
定期巡回・随時対応型訪問介護看護／夜間対応型訪問介護／訪問介護通所介護／居宅介護支援

【法人概要】
認知症ケアで長年培った実践研究や臨床データをもとに、医学や看護、介護などに裏付けられたケア実践を体系化した「Kyomation Care (キョウメーションケア)」を提供。2012年10月から横浜市都筑区で定期巡回・随時対応型訪問介護看護を開始、セコムの緊急通報サービスとの連携による手厚いケアを提供している。

【URL】
<http://www.kyomation.com/>

同法人では定期巡回・随時対応型訪問介護看護の提供にあたり、クラウド型の情報共有システム「KCIS (Kyomation Care Interface System)」を導入。これにより医療と介護の連携強化と多職種間の情報共有を実現させた。「KCIS」では、バイタルや睡眠・排泄、栄養、アセスメントなどの「介護情報」、血液検査や薬剤、糖尿などの「医療情報」のほか、生活歴などの「個人情報」などを搭載、一人ひとりの身体状況をリアルタイムに把握できる。

サービス開始から約1カ月間をかけて、これらのデータ等々を蓄積していきながら生活パターンを把握したうえで利用者に応じた訪問介護計画を作成する。サービス開始後も、蓄積データをもとに1カ月ごとに訪問介護計画を見直し、失禁予防や睡眠障害の改善、ADLの維持、糖尿病の改善、褥瘡予防、認知症ケアなどきめ細かいケアができるのもポイントだ。

定期巡回・随時対応型訪問介護看護の人員体制については、現在、3人のスタッフで利用者10人を支援できる体制を可能にした。その秘訣の1つが「KC

IS」に搭載するスタッフの位置情報だ。職員の動きがリアルタイムに地図上に表示されるので、オペレーションセンターでは地図を見ながら効率的にスタッフに訪問の指示ができる。他にも、アルツハイマー型認知症であれば訪問回数を多めに組み込む、レビー小体型認知症であれば、夕方の時間帯のケアを手厚くするなど、認知症のタイプ別による訪問パターンを導入するなどの工夫を図っている。

さらに、同法人がサービスを提供する横浜市都筑区では、セコムの「緊急通報システム」がメニューに組み込まれている点も特長の1つ。安否確認や火災監視、救急サービスなどプラスアルファの安心が提供できる。

課題としてはケアマネジャーに対する同サービスの周知徹底。認知症ケアのエキスパートである同法人では、このサービスを「認知症利用者にとって最適なサービス」と位置付けているが、同サービスの普及・拡大を図っていくためにも、ケアマネの理解や専門性を高めていくことが欠かせないと考えている。